

国民食であるカレー。そのカレーで地域の活性化を目指し立ち上がった「相模大野カレーフェスティバル」は、今年で6回目を迎えます。中国料理昌龍飯店の店長で、同フェスティバルの発起人でもある女子大通り商工振興会（南区相模大野）の河内文雄会長に、これまでの取り組みや今後の展望についてインタビューしました。

―河内会長が発起人と聞きました。

「カレーフェスティバルは2019年から始まった女子大通りの新しいイベントです。下北沢や横須賀で開催されるカレーフェスに何度も足を運ぶ中、その活況を目にしていました。カレーは子どもも大人も大好きな国民食。フェスがあることで人が集まり、売り上げも伸びる。地域経済も活性化する。ならば、地元・相模大野でも開催したいと思いました」

「さまざまなフェスに自ら参加しました。出店してカレーメニューを企画・販売したり、他の出店者と情報交換をしたりと、フェスを作り上げるためのノウハウを身に付けました。初開催の時は、女子大通り商工振興会と銀座通り商店街などを中心に、30店舗が参加してくれました。関係者からは当初、『もつからない』と言われましたが、私は絶対黒字になると信じて準備を進めていました。蓋を開けてみると、参加店舗すべてが黒字になりました。参加企業も年々増え、開催方法も工夫を重ねています」

―コロナ禍でも開催したそうですね。

「伊勢丹の撤退や新型コロナの感染拡大で、地域の飲食店は厳しい状況が続い

ていました。こうした中でも覚悟を決め、

参加店にマスク飲食実施店の認証を取ってもらうなどの万全の対策を取りながら実施しました。『スパイスで元気になってほしい』『多くのの人に楽しんでもらいたい』という思いでした」

「一方、地元出身芸人の無料ライブや、カレーの食べ比べイベント、スタンプが三つたまるごとに豪華賞品が当たる抽選に応募できるスタンプリーなど、地元のお客さんだけでなく他地域のカレーマニアにも来てもらうために毎年工夫を重ねています。徐々に他の企業にも協賛してもらえるようになり、活動の幅が広がっています。22年からは、期間中にこども食堂への食事提供もしています」

―会長の任期を終えて退任されると聞きました。フェスの今後は？

「現在、女子大通り商工振興会および相模大野駅周辺商店会連合会の会長もさせていただいております。任期満了とともに退任しますが、カレーフェスは変わらず関わっていきます。相模大野では7、8年ほど前から各商店で世代交代が進んでいます。中でも40〜50代の代表者が増えました。当会の役員は約10名です

「カレーフェス」で地域を元気に 食の祭典で商店街に人を呼び込む

女子大通り商工振興会 会長 河内 文雄さん
中国料理昌龍飯店 店長



が、うち女性が3名です。昔はなかったことです。多様なテーマで会議を月1回開き、女性役員からも積極的に知恵を出してもらっています。フラットな組織となったことで、仲良く頑張っているという雰囲気生まれています。毎年定番だったイベントも、女性目線の新しいアイデアが出てくるなど、発信力が強化されてきています。とてもよいことだと思います」

―商店街の今後について、お聞かせください。

「今ほどの地域でも人手不足が課題で、

世代ごとの考え方や行動様式もどんどん変わってきています。こうした中で、地域の皆さんとも手をつないで協力していけば、直面する問題もクリアできると思います。それぞれ業種は違いますが、同じ目標を持って頑張っていけば、より素敵な明日につながるはずです。自身の経験から言えることは、やはり考え方や行動力は大事だということです。変化はチャンスだと思えますので、気付きやひらめきを自分の中にとどめず、仲間をつくって共有していくことで次のステップに行けると思います」